

Title	危機対応能力を段階的に強化するシステムの構築 : 3.11で得られた教訓を机上演習に適用する
Sub Title	Designing a Gradual Buildup System for the Incident Response Capacity : Applying Lessons Learned from 3.11 Disaster to Tabletop Exercise
Author	芹澤, 薫(Serizawa, Kaoru) 手嶋, 龍一(Teshima, Ryuichi)
Publisher	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科
Publication year	2014
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2014年度システムデザイン・マネジメント学 第161号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40002001-00002014-0003">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40002001-00002014-0003</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

危機対応能力を段階的に強化する  
システムの構築  
— 3. 1 1 で得られた教訓を机上演習に適用する —

芹澤 薫

(学籍番号：81233322)

指導教員 教授 手嶋 龍一

2014 年 7 月

慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科  
システムデザイン・マネジメント専攻

# 論 文 要 旨

学籍番号	8 1 2 3 3 3 2 2	氏 名	芹澤 薫
論文題目： 危機対応能力を段階的に強化するシステムの構築 — 3. 1 1 で得られた教訓を机上演習に適用する—			
(内容の要旨)			
1. 研究の背景 2011年3月11日に発生した東日本大震災では、想定外とされてきた事態に対して多くの関連組織の対応システムが機能不全に陥ったことで被害の局限に失敗したことから、我が国における危機管理の在り様が厳しく問われた。その原因は多岐に渡るが、情報の不確実性による意思決定の阻害は大きな問題であった。この状況に対して、インテリジェンスの視点から訓練を重ねることで危機対応能力を強化できる要素があるところ、そこに焦点を当てて研究を行うこととした。			
2. 現状 震災を経て、原子力発電所では先進諸国で広く普及している米国流の一元的な危機対応システムが導入されたり、政府が組織する原子力総合防災訓練においてこれまで殆ど行われてこなかったシナリオ非提示型の対応演習（ブラインド訓練）が行われるなど、構造的な改善が進みつつある。また民間では「事業継続計画（BCP）」の策定が進んでおり、内閣府の調査（2014年）によれば、BCPの策定状況は大企業で約54%、中堅企業で約25%が策定済みとなっている。しかし不確実な状況下で意思決定を妨げる要因を組織単体での構造改革やBCP策定だけで克服できるとは言えず、担当者が実際に危機対応能力を発揮する上でのボトルネックがなお残存する可能性がある。			
3. 研究の範囲 組織が危機対応に当たる際、その成否は初期段階でどれだけ状況を的確に認識した上で、具体的な対策を決定できるかによって左右される。そこで情報の精度や重要度を整理・分類して利用する「情報トリアージ」を訓練することで、組織の危機対応能力が強化されるのではないかと考えた。			
4. ソリューション 能力開発訓練にはセミナーから統合演習まで多様な手法があるが、現時点でBCPなどの運用経験が十分に蓄積されていない中小企業でも導入できるよう、外部の人材に頼らず自ら準備、実施可能なシナリオ非提示型の机上演習をソリューションとして提案した。			
5. システムの評価と検証 不確実な情報をトリアージしてインテリジェンス化するために、様々な状況に適用可能で迅速な状況認識に資する評価軸の要素を研究した。さらに自衛隊または消防で様々な訓練策定や危機対応の経験を重ねた有識者などのレビューによって、提案システムの妥当性を確認した。			
キーワード (5 語) 危機対応 意思決定 インテリジェンス 情報トリアージ 机上演習			

SUMMARY OF MASTER’S DISSERTATION

Student Identification Number	81233322	Name	Kaoru Serizawa
Title  Designing a Gradual Buildup System for the Incident Response Capacity -Applying Lessons Learned from 3.11 Disaster to Tabletop Exercise-			
Abstract			
Key Word (5 words) XXX			